



後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理工学部
情報学科教授。ISOC理事、APNG
議長、MINC理事長を歴任。現在は
APAN副議長としてアジア太平洋の
インターネット界で活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp

教育は手段を選ばない

学校の教室と言えば黒板とチョークを連想する。現実の教室には各種の機器が備えられている。テレビがあり、ビデオがあり、大教室にはマイクとスピーカーがある。液晶ディスプレイとスクリーンがある。書画カメラや講師を写すテレビカメラを備えた教室もある。

テレビには教育番組があり、ビデオによる教材もある。マイクやスピーカーは講師の声を拡声するのに用いることもあるが、語学の教材テープもある。最近はテープよりCDやMDが使われるのかもしれない。パソコンを用いる教育用のソフトも数多くある。スクリーンはOHPによる投射にも役に立つ。

現在ではほとんど使われていないが、映画による教材を教室で映写することがあった。音声や音楽の教材の中にはレコードに録音されていたものもある。このように見てくると、入手可能なメディアは、ことごとく教育の分野で活用されていたことがわかる。

インターネットを使うと授業が遅れる

教育の分野ではインターネットも使われている。ただし話は単純ではない。たとえばインターネットを活用して「マレー半島の産業について調べる」課題を出すとする。これを学生が個人で取り組むか、班ごとに取り組むか、いずれにしても進度に差がついてしまう。最後のグループを待っていると、先のグループは遊びの時間になってしまう。

進度に差がつくのは、インターネットを使わない場合でも起きていた。たとえば体育でマラソンの練習をすれば、速い学生と遅い学生の差がつく。最初にゴールした学生は最後の到着まで待たされる。これを問題にする人はいないのだが、インターネットを使った調べ学習では問題だと言われる。実際にインターネットを使う場合には大きな差がつきやすい。

従来 of 出版物の中には年少者に見せるのが適切でない書籍がある。インターネットのウェブのページの中には成人向けの表現がある。世の中はインターネットのほうを問題にする。本屋で出版物を買うよりも、クリックしてページに到達するほうが簡単だから、警戒されるのは仕方がない。インターネットは便利で強力な道具であると皆が認識している。

双方向性を活かす

教育のチャネルとしてのインターネットには優れた特徴がある。テレビの教育番組を全国に放送するのはすばらしいことには違いないが、基本的に片方向の情報伝達である。インターネットを使う教材ならば双方向性を活かすことができる。インターネットは基本的に双方向の通信手段であるからだ。

一口に教育と言っても、その内容は千差万別である。片方向に情報を伝達すれば済む教材もある。その一方で黒板とチョークが生き残っているのは、相変わらず教室で先生が講義をして、学生が座って聴いている形態があるからだ。ここで重要なのは学生から先生へのフィードバックである。

教えるのが上手な先生というのは、いくつかの特質を備えている。その1つは学生からの反応を的確に捉えていることだ。教室にいる学生から見れば、授業に参加しているという実感が得られるのがよい。もっとも、上手な先生というのは学生を「わかった気分」にさせるだけだという説がある。授業のときにはよくわかったはずだが、試験になるとサッパリできないということになる。

集中と分散

インターネットは分散型の情報通信システムだと言われる。ただし分散と見える陰で集中する情報がある。たとえば、教育の分野で片方向に伝達すれば済むような教材ならば、少数の教材で多数の学生をカバーできる。その教材を複数の学校で共有することができる。言語の翻訳が必要かもしれないが、多数の国にまたがって同じ教材の利用が可能になる。

学習用の教材が世界的に寡占の方向に向かうという説がある。現在の教科書の中にも世界的なベストセラーとなる書籍がある。これがインターネットでは加速するという見方である。さらに双方向の特徴を活かした教材でも、人気のある先生の教材が世界規模で席捲するという予測が唱えられている。世界中で名講義を聴いて「わかったような気分」に酔うことになるのかもしれない。そして試験もネットワークの上で行われる。

インターネットは、世の中に大変化をもたらす。教育はとかく特別扱いを受けることが多いのだが、冷静に考えるとサービス産業の1つであり、インターネットの影響を一番受けやすい分野である。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp